

2022 年度（令和 4 年度）

事業報告書



公益財団法人キープ協会

目次

2022 年度 事業計画の方針・重点項目 概況	3
.....	
公益Ⅰ. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業	4
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
7. 専門スタッフの育成	
公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業	7
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 食育として	
公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を 提供する事業	8
1. 清泉寮	
2. 自然学校・キャンプ場	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業	11
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 幼児の育成と子育てに関する事業(清里聖ヨハネ保育園)	13
1. 地域のニーズに合わせた子育て支援	
2. 保育の質の向上	
3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
4. 自然のリズムを大切にした食事の推進	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成	
7. 他部署(自然学校及び環境教育事業部)との連携	
8. 保護者や地域の方々との協働	
9. 卒園児のバックアップ	

収益Ⅰ. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等（製販事業部）	14
1. 収支動向	
2. 重点業務	
3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業	16
1. 清泉寮	

本部（管理部門）	17
1. 総務	
2. 経理	
3. 施設	
4. 企画	
5. 営業	

■公益事業重点項目

1. 教育機能の強化：

教育研修、環境教育、保育等を通じ、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出する。

2. 農場の強化：（一番美しい牧場＝清泉寮ジャージー牧場）

景観やお客様に配慮した設備・案内看板類を充実させる。

高冷地酪農事業、希少なジャージー牛、有機 JAS 認定牛乳、アニマルウェルフェア等に係る情報発信を強化する。

3. 保育事業の運営体制見直し：

幼児の育成と子育てに関する事業活動をさらに活性化する諸施策を実施する。

4. 地域社会への貢献：

研修交流、農場、保育園等、各種事業部を通じて地域社会の健全な発展に寄与する。

5. 人材育成支援：

環境教育、保育園、研修交流等の各事業を支えるスタッフの育成及び専門的なスキルアップを目指す人材への支援を強化する。

【収益事業重点項目】

ウィズコロナ・アフターコロナにおける必要収益水準の確保
公益財団法人としての活動を支える収益事業体制の見直し・強化

1. 体制見直し：

各収益事業の業務体制を見直し、再構築する。

2. お客様を迎える態勢整備：

施設等の整備、プログラムの充実と利便性の向上に取り組む。

3. 関係部門の連携強化：

公益事業及び関係部門との連携を強化して、組織が一体化した事業運営を目指す。

4. 人材育成強化：

各スタッフのスキルアップを目的に、職員教育、研修の実施・提供や人事制度の見直し等を行うと共に、職員が働きやすい職場環境作りに取り組む。

<概況>

新型コロナウイルス感染症に対する行政の対応が徐々に緩和されたことから、一部事業の再開・プログラムや宿泊研修利用の増加等の動きが見られた。しかし繰り返す感染拡大により行動制限の水準は高く維持され、ロシアのウクライナ侵攻による物価高騰と合わせて、事業の運営・財務の両面に引き続き大きな影響を与えた。全体の事業売上は前年比 127%、2019 年度の 95%となった。このような状況下において、必要な感染対策を実施しながら公益事業の継続実施・向上に取り組んだ。また、新たに酪農事業の情報発信や保育事業の子育て支援に係る強化策がスタートした。

公益 I. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業

1. 環境教育

環境教育研究と地域の自然情報・ヤマネの総合的な研究蓄積を基盤に、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働による環境教育事業及び環境保全事業を、清里・那須及び国内外で展開し、持続可能な社会実現に取り組んだ。

(1) キープ・フォレスターズ・スクール

① キープ・フォレスターズ・スクールの役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供及び研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

② 2022 年度の重点目標

- A. 新規ニーズの開拓
- B. オンラインを含めた活動展開
- C. 森の多面的活用（ワーケーション、リトリート、森のようちえん等）
- D. 自然×文化・歴史・暮らしのインタープリテーション

③ 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施

表 1：2022 年度主催事業の実績

	2022 年度	2021 年度	増減
宿泊型環境教育プログラム	70 人／5 回	65 人／4 回	+5 人／+1 回
日帰り型環境教育プログラム	251 人／33 回	288 人／25 回	▲37 人／+8 回

④ 受託事業

学校・企業・省庁・自治体等の受託事業を実施

表 2：2022 年度受託事業の実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	山梨県内外小中学校・保育園、北杜市立甲陵中学校
	行政関係	北杜市、JICA
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団、ena
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、三重県緑化推進委員会
	一般	サントリー、電源開発
合計	227 事業	

⑤ 指導教育

- A. 職員のスキルアップのための研修実施
- B. 3 名のインターン生（東海大学、帝京科学大学、立教大学）を受入れ
- C. JICA 日系研修にて約 2 ヶ月間 1 名の研修員を受入れ

(2) 清泉寮やまねミュージアム

① 清泉寮やまねミュージアムの役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発

② 2022 年度の重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力。オンライン館内ツアー等、コロナ禍の中で展開された新たな実践の普及

③ 2022 年度の事業計画

国内外での総合的なヤマネ研究・保護及び生物多様性研究の推進への協力。アニマルパスウェイの国内外の開発と普及への協力、国内外の研究者との連携・情報交換・共同研究、研究成果を活かした展示や環境教育プログラムの開発・実施、「やまねミュージアム」の管理

運営、ヤマネ関連グッズの開発・販売、老朽化する建物の維持・管理・補修、ボランティアとの連携

A. 「清泉寮やまねミュージアム」の管理運営

展示内容の更新、ビジターセンター関係者・中国自然体験指導者等の研修にて活用

B. ヤマネの研究成果を活かした環境教育

北杜市立甲陵中学校「八ヶ岳南麓学」への協力、北杜市内図書館での出張展示への協力等

④開館日数、入館者等の実績

表3：2022年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2022年度	2021年度	増減
年間開館日数	173日	173日	±0日
入館者数	9,899人	8,321人	+1,578人
1日平均入館者数	57.2人	48.1人	+9.1人
利用団体数	22団体	22団体	±0団体
団体利用者数	1,673人	1,064人	+609人

2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」指定管理業務

(1) 山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターの役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良い環境の保全と継承に貢献した。

(2) 2022年度のテーマ＝対話的な学びの場

(3) 2022年度の事業実績

主催事業の実施（利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログラム、年度テーマに沿った講座等の各種企画事業、館内展示、映像上映等）、施設及び設備の維持管理、自然ふれあい施設としての機能（自然調査、教材開発）、周辺の文化施設や地域にあるネットワークとの連携、ボランティアとの協働、利用促進業務、自主事業（環境教育関連書籍やグッズの販売）の実施

(4) 開館日数、入館者等の実績

表4：2022年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2022年度	2021年度	増減
年間開館日	321日	285日 ※	+36日
入館者数	76,520人	44,298人	+32,222人
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,476,445人	2,399,925人	
1日平均入館者数	238人	155人	+83人
利用団体数	228団体	130団体	+98団体
団体利用者数	11,169人	5,482人	+5,687人
プログラム回数	490回	410回	+80回
プログラム参加者数	23,025人	11,824人	+11,201人

※ 8/8～9/12 山梨県の要請により新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務

(1) 事業実績

①全体

第4期の3年目（1～4期を合わせ12年目）の業務実施、地域連携の強化、利用促進のための方策を立案し実施、提案書に明記した業務（自然教育プログラム、展示、広報・普及啓発、業務の質の維持向上）、国立公園満喫プロジェクト事業への協力および実施をそれぞれ行った。また、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を十分に取った上での施設運営実施

②那須平成の森

フィールドセンター運営、プログラム開発と実施、屋内外の展示制作、国立公園の環境管理等を行った。集合形式の環境教育人材育成事業は、十分なコロナ対策の上で1回実施

(2) 開館日数、入館者等の実績

表5：2022年度那須平成の森の実績

	2022年度	2021年度	増減
年間開館日	310日	283日	+27日
入館者数	36,265人	30,535人	+5,730人
(内、立寄り団体利用者数)	3,318人	1,883人	+1,435人
(公募)個人利用者向け利用者負担プログラム参加者数(※1)	727人 (167回)	667人 (152回)	+60人 (+15回)
※1=ガイドウォーク、同特別編、自然体験・学習プログラム、植生管理プログラム			
無料ミニプログラム参加者数(※2)	1,056人 (269回)	956人 (238回)	+100人 (+31回)
※2=運営会設定の実施回数=160回			
(受託)団体利用者向け利用者負担プログラム参加者数	1,056人 (42団体)	868人 (31団体)	+188人 (+11団体)

4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動
オンラインでの普及啓発、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の活動支援
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会2回実施、ホームページ・通信等での広報協力、脱炭素普及促進事業支援業務等
- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言
392件対応(推進員・行政関係者・県民等)、山梨県委託事業：脱炭素普及促進事業支援業務の実施
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供
問合せ時等随時の情報提供

5. 環境研究所

環境教育事業部の機能の1つとして、事業部横断的に研究活動を行った。

- (1) 環境保全研究
主に清泉寮やまねミュージアムが担った(詳細は4ページ1-(2)参照)。
- (2) 環境教育研究
冊子「人と自然の出会いの場づくり」の編集を進め、学会などでの発表を行った。

6. 地域における環境教育事業

地域有志と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレスターズ・スクール事業にて、北杜市立全保育園・こども園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・小学校での授業協力、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進センター事業として、県民対象のイベント、エコエネガイド等を行った。

7. 専門スタッフの育成

JICA研修員の受入れ、日本インタープリテーション協会の人材育成計画への参画を行った。

公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業

～ 地域農業の活性化 ～

1. 生産農場として

- (1) 標高 1,250m～1,400m の高冷地、傾斜地で 2021 年度に引き続き飼育総頭数 90～100 頭（内訳：成牛 53、育成牛 25、仔牛 3、雄仔牛 21）、搾乳頭数は年間平均 48 頭、総生産量は 160,289 kg（タカハシ乳業への出荷乳量 154,182 kg、哺乳量 6,107 kg）となった。また繁殖管理等の日常管理の技術的向上に取り組み、安心安全にこだわった有機 JAS 牛乳の生産を行った。
- (2) 粗飼料の完全自給を目指し、圃場（採草地 27.8 ha、放牧地 21.4 ha）整備の推進と共に、生産性の向上、環境整備（牧柵の整備等）に取り組んだ。
- (3) 牧草地に堆肥・尿等の散布を行い、循環型酪農を推進した。
- (4) 山梨県畜産課・畜酪総合センター・家畜共済と協力し、家畜衛生管理を徹底した。
- (5) 環境負荷軽減型酪農経営支援事業助成金を活用し、酪農に起因する環境負荷の軽減を図った。
- (6) 「アニマルウェルフェア」の考え方を踏まえた飼育に取り組み、山梨県が新たに創設した「アニマルウェルフェア認証制度」の認定を取得した。

飼育頭数	2022 年度	2021 年度	増減
成牛	53 頭	63 頭	▲10 頭
育成牛	25 頭	11 頭	+14 頭
哺乳牛	3 頭	9 頭	▲6 頭
合計	81 頭	83 頭	▲2 頭
内 搾乳頭数	48 頭	48 頭	±0 頭
総生産量	160,289 kg	173,404 kg	▲13,115 kg

2. 教育農場として

- (1) 新型コロナウイルスの影響により短期及び長期実習生、大学等の学生・研修生の受入れ中断を継続。
- (2) 学校及び企業団体プログラム 3 件実施
- (3) 他部署との連携強化により、一般来訪者から学校団体までを対象とした日帰り型・宿泊型の牧場体験プログラムを充実させた。
- (4) 施設見学や牧場体験プログラム等を多くの方々に広く提供し、「高冷地酪農」、「循環型酪農」、「ジャージー牛」、「有機 JAS 認定牛乳」、「アニマルウェルフェア」についての理解醸成を図った。
- (5) 一般のお客様向けプログラム
 - ① 農場内を紹介するために GW、夏季に実施した。スペシャルハイライド 49 回／1,908 人参加
 - ② 循環型酪農、有機ジャージー牛乳生産の紹介のためのジャージー牛ファンクラブ設立から 1 年が経過し、当プログラムの参加実績は 147 名

3. 食育として

- (1) 「食育」の一環として、清泉寮有機 JAS ジャージー牛乳の普及及び関連乳製品の開発、普及促進を図った。
- (2) 「循環型酪農」の一環として、雄仔牛・交雑種の肥育、牛肉の生産を行い、施設内のレストラン等に食材として提供した。実績 33 頭。

公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する事業

～ 地域のランドマークとして地域活性化に貢献 ～

1. 清泉寮

研修宿泊施設、公益財団法人キープ協会の中核施設、地域のランドマークとしての役割を担い運営した。

- (1) 山梨県による「感染症予防対策に係る基準」に沿って、利用者及び職員にとって安全安心な施設運営を心掛けた。また、客室アメニティをセルフサービスに切替え、環境にも配慮した運営を行った。
- (2) 下記利用実績の通り、首都圏の教育旅行について感染状況を踏まえ利用があった。また、研修を中心として一般団体の利用もあった。
- (3) 地元食材の積極利用を継続して地域生産者の支援を行うと共に、地産地消などの食育に関するメッセージの発信に努めた。
- (4) ジャージ牛ファンクラブの会員特典として、宿泊特別価格の設定による利用促進に努めた。また、環境教育事業部との連携でプログラム付の宿泊プランの販売を行った。
- (5) 前年度に続き地域を対象にした宿泊プランを継続して販売し利用促進に努めた。また、地域住民や宿泊客を対象として、人数制限・感染対策を徹底したコンサート（12月）を実施し、地域・社会に対する貢献活動を継続した。
- (6) 新館南側にある森林の適正管理と宿泊者に対する自然体験・教育プログラムの提供を目的とした「清泉寮まなびの森プロジェクト」の開始（2023年度予定）に向けて、該当エリアの間伐を行った。

(団体利用実績)

	2022年度	2021年度	2019年度	増減(前年対比)
宿泊団体数	105件	51件	208件	+54件
宿泊団体利用者数	8,344人	2,897人	13,505人	+5,447人

2. 自然学校・キャンプ場

清泉寮自然学校（通年営業）及び清泉寮キャンプ場（夏季7月～9月営業）の2つの研修宿泊施設として、団体・グループ・家族の利用に特化した運営を行った。

(1) 団体の受け入れ

幼稚園、保育園及び小学校から大学・各種学校まで、幅広い団体を受け入れた。コロナ禍によるキャンセルが続く一方で、利用施設変更や目的地変更を含む新規教育旅行団体の利用もあり下記実績の通り利用増に繋がった。また、製販事業部やミュージアムと連携しながら法人全体の利用に繋がるように努めた。

(2) 自然体験プログラム

環境教育事業部と連携し、法人の敷地全体をプログラムフィールドとして、豊かな自然環境を活かしたオーダーメイドの自然体験プログラムを通年で提供した。

(3) 食育の推進

地産地消をベースとした手作りで健康的な食事を提供し、宿泊者に対して食事の際に当施設の食育の取り組みを継続的に伝えることができた。

(4) 主催キャンプ

- ① 「森のかぞくキャンプ」に新たに「あそびクラブ」と「探求クラブ」の κατηγοリーを設け、幅広い年齢層のニーズに対応するプログラムを展開
- ② コロナ禍で休止していた「森のようちえん」を10月から本格的に再開した。再開に向けては、まずはトライアル回を実施して参加者の声や保育現場のアドバイスを聞き、参加者が安心して参加できる環境づくりを実施
- ③ 環境教育事業部との連携で、新鮮なプログラムを提供

(5) 施設整備

施設部と連携して計画的に修繕・整備を行い、安全な施設運営に努めた。

(団体利用実績)

	2022年度	2021年度	増減
宿泊団体数	87件	36件	+51件
うち自然学校	75件	34件	+41件
うちキャンプ場	12件	2件	+10件
宿泊団体利用者数	5,791人	2,318人	+3,473人

(主催キャンプ開催実績)

	2022年度	2021年度	増減
企画数	4企画/26回	1企画/10回	+3企画/+16回
参加者数	599人	268人	+331人

3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の創設者であるポール・ラッシュ博士の業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、法人の広報・教育機能の一端も担い活動した。

(1) 博物館業務

ポール・ラッシュの業績や歴史を紹介する通常の開館業務、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続、収蔵資料や美術品の保存・管理業務、国内外でのラッシュ関連の資料の捜索・発見・収集、ポール・ラッシュ邸の修繕・保護・活用を行った。

(2) 企画展

①8月：いえなか美術館「ありがとうのきもち」展

②12月～3月：県内社会福祉施設入寮者の作品企画展「青い鳥成人寮のうつわ」展

(3) 日本アメリカンフットボールの殿堂

日本アメリカンフットボール協会からの寄託資料管理・展示。来館者にアメリカンフットボールに触れる機会の提供、競技の普及活動。1月3日に東京ドームで開催された全日本選手権「ライスボウル」へ副賞提供、授賞式への参加。

(4) 広報活動

県・市や対外的な機関との連携、メディアやSNSを活用した。

(5) 教育普及活動

①「キリスト教入門」(5回開催)

②「ロザリオづくりワークショップ」

③「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」

④「古写真を用いたフットパス」(峡北地域社会科教員に向けて開催)

⑤「ミュージアムツアー」(学校・企業団体向け)

(6) 他部署との連携

①公益Ⅲ 清泉寮・自然学校利用者の入館無料

②公益Ⅳ 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業のうち「1. 国際交流事業」

(1)(2)(3)(5)の協働におけるインターン生の受入れ<中止>

③「清泉寮収穫感謝祭」でパネル展示(於：清泉寮本館ホール)

(7) 地域貢献

①地域の博物館・美術館等が参画するハヶ岳ミュージアム協議会の創設館として、地域ミュージアムとの連携を継続

②良質な文化を届けることを目的に、他部署と連携し、音楽会等を開催

③北杜市清里地域活性化委員会へスタッフ派遣

④北杜市内の小中学生の入館無料対応

(8) 受託事業

①立教大学全学カリキュラムにおける講義「立教学院とポール・ラッシュ」(春期)の兼任講師

②北杜市内小学校における道徳授業の講師

③山梨近代人物館における講演「ポール・ラッシュとアマチュアスポーツ」実施

④日本聖公会信徒グループへの講演と執筆

(9) 教育支援

立教大学でボランティア活動を行う学生3名に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付した。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2022 年度	2021 年度	増減
年間開館日数	280 日	202 日	+78 日
入館者数	7,281 人	3,494 人	+3,787 人
1 日平均入館者数	26 人	17.2 人	+8.8 人
団体数	43 件	12 件	+31 件
団体入館者数	2,298 人	533 人	+1,765 人

公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

～ 新型コロナで中断された事業の再開に向けて ～

1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成及び地域貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO等の多様なコミュニティと連携しながら、事業内容の充実と発展に取り組んだ。また、各国の新型コロナウイルス感染拡大状況を注視し、交流事業の実施における安全性の確保と配慮に努めた。

(1) ケンタッキー交流事業【北杜市受託事業】

例年、下記の北杜市の小中学生、大人の幅広い年齢層の国際交流事業の実施に協力している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により一部事業は中止されたが、交流関係者との連携を図った。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ①北杜市代表団訪米事業（11月） | <実施> |
| ②中学生ホームステイ交流事業（7～8月） | <コロナ禍により中止> |
| ③マディソン郡代表団受入事業（10月） | <コロナ禍により中止> |
| ④日米文化交流 | <コロナ禍により中止> |
| ⑤子ども絵画交流（通年） | <コロナ禍により中止> |

(2) 北杜市中中学生海外交流事業【北杜市受託事業】<北杜市による事業中止>

北杜市による中学生のカナダ派遣・交流事業の実施に協力する。（8月）

これまで隔年で実施されていたが、今年度は北杜市の決定により受託中止となった。

(3) 国内外のインターン生の受入れ（5～12月）

国内の青少年を受け入れ、ポール・ラッシュ博士の精神や功績の次世代への継承・普及を図った。新型コロナウイルスの影響により、海外インターン生の受入れを中止したが、関係者との連携・コミュニケーションを図った。

- | | |
|------------------|-------------|
| ①海外インターン生（5～12月） | <コロナ禍により中止> |
| ②国内インターン生（8～3月） | <一部受入れ> 8名 |

(4) 地域への国際理解プログラムの実施（通年）

地域の青少年育成と地域社会への貢献を図るため、環境教育、国際理解・英語教育等の分野で事業協力を行った。

①地域英会話プログラムの提供

「青年への希望」をキーワードに、地元地域の子どもたちへ英会話プログラムを実施（4-7月、9-12月、1-3月、週2回実施）

②地域の学校への協力

甲陵高校の設定した課題「グローバルに活躍する人材の育成」「社会との共創」をテーマに英語による環境教育プログラムを実施（9月）

(5) 絆プロジェクト【ピース・フィールド・ジャパン主催】への協力

例年、イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受け入れているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により受入れを中止した。

(6) 北フィリピン青年育成事業への協力（通年）

例年、現地の環境教育スタッフ2名をインターン生として招聘しているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により受入れを中止した。

(7) 国際交流団体・公的機関との連携（通年）

山梨県国際交流協会、国際交流北杜地域連絡協議会等の諸団体との連携を図った。

～ 地域社会の健全な発展に貢献 ～

2. 地域連携事業

- (1) 山梨県の新型コロナウイルス感染防止に係るイベント開催基準に従い、地元清里有志と「清泉寮収穫感謝祭」を開催した。

(2) 地域連携業務

- ①フードバンク山梨や北杜市社会福祉協議会等と連携し、貧困な環境に置かれた子供たちの支援を行った。特にフードバンク山梨に対しては、新山梨フードバンクセンター建設に係る寄付金を提供
- ②NPO 法人清里観光振興会に理事として関わり、組織運営に積極的に参画
- ③北杜市清里地域活性化委員会に委員として関わり、北杜市の地域活性化に参画
- ④八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地域各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の側面から地域連携を推進
- ⑤八ヶ岳音楽祭をはじめ、地域の音楽活動に発表の場を提供すると共に、活動を支援
- ⑥写真展・絵画展等の発表の場を提供すると共に、地域の芸術活動を支援
- ⑦地域団体と連携して美化・清掃活動を実施
- ⑧地元消防団、行政区、神社、警察関連機関等へ支援

公益 V. 幼児の育成と子育てに関する事業（清里聖ヨハネ保育園）

～ 育児・子育て支援を通じた「地域社会の健全な発展」に貢献 ～

～ 幼児の育成 ～ 幼児の主体性を大切に・豊かな感性を育む

キリスト教精神に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、また「森の保育園」のコンセプトの下、地域の資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育を重点的に行った。

1. 地域のニーズに合わせた子育て支援

保育所型認定こども園に移行し、保護者のニーズに合わせた教育部分の保育を行うと共に、事業所内保育所と連携した保育を行った。また、行政と協力して保護者のための子育て支援を行った。

2. 保育の質の向上

「キリスト教保育」「森の保育」「リスクマネジメント」「各部門における理解」はそれぞれ研修に参加したり、事例研修を職員間で行ったりしながら質の向上に努めた。

3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

「異年齢児保育」については、3・4・5 歳児を2つのグループに分け、模倣や助け合いを目的に育ち合う場作りとして行った。0・1・2 歳児も年齢別ではなく、成長に合わせて2グループに分けての活動を行った。「森の保育」は一年を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

4. 自然のリズムを大切にした食事の推進

自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。また、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。

5. 園舎内及び周辺環境整備

職員・保護者・地域の方々との環境整備の日を設け定期的に整備を行った。また「森庭」の整備も業者と協働しながら作業を行った。

6. 研修実施・視察受入れ等を通じた人材育成

園内研修を実施し、質の向上に務めた。園外研修は新型コロナウイルス感染症防止への配慮からリモートでの研修に参加することが多かった。視察・研修の受入れは、新型コロナウイルス感染症防止の観点から困難だった。

7. 他部署（自然学校及び環境教育事業部）との連携

「森の楽童」の実施については環境教育事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用し整備を行った。

8. 保護者や地域の方々との協働

保護者主催の「森の楽童」は年に12 回行い、フィールドの貸し出しと人材協働を行った。文庫活動は、年度の後半に少人数の対応での貸し出しを行った。

9. 卒園児のバックアップ

「卒園児キャンプ」は新型コロナウイルス感染症防止のため、実施できなかった。

収益 I. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等（製販事業部）

公益財団法人キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

1. 収支動向

（金額：千円）

収入部門	2022 年度	2021 年度	増減
売店	262,407	190,103	+72,304
ソフトクリーム	139,721	101,034	+38,687
飲食	70,626	56,627	+13,999
合計	472,754	347,764	+124,990

新型コロナウイルスによる影響が続く中、入込客に回復の兆しが見えてきた。特に個人客はコロナ禍以前の状況に戻りつつある。しかし、団体客についてはまだまだ回復に至っていない。各店舗では効率化を図る様々な業務改革に取り組んでおり、支出の抑制に成果をもたらした。最終的に収入は前年比 135.9%という結果に終わった。

2. 重点業務

2022 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- (1) 新 POS システムによる効率的な業務運営及びデータ管理の強化
- (2) 店舗周辺を中心とした景観改善
 - ① 高原らしい景観を維持するための環境整備
 - ② 高冷地ならではのガーデン整備
- (3) 各種商品開発
- (4) キープ内容単価の向上を図る、お客様の滞在時間延長化
 - ① 清泉寮ジャージーハットを中心とした各店舗間の連携
 - ② 店舗間連携による複数店舗の利用促進
 - ③ 各種インフォメーションの充実

3. 通常業務

通常業務は以下の通り実施した。

- (1) 店舗運営（清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮ファームショップ・清泉寮新館売店）及び通信販売
- (2) ギフト需要に対応した自社通販および百貨店等の産直販売
- (3) 物産展及び催事等への出張販売（別表参照）
- (4) 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- (5) 地元産及び県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- (6) 「人と地球の健康」をキーワードとした食の安全と環境への配慮を考えたメニュー展開
- (7) ジャージー牛乳及び清泉寮ジャージー牧場産の牛肉を使用したメニュー展開
- (8) 各種媒体及びメディアを活用した広報宣伝
- (9) POS システムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理
- (10) 業務の効率化によるコスト削減
- (11) 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費増加を抑制
- (12) やまなしグリーンゾーン認証に基づく各店舗の徹底した新型コロナウイルス対策
- (13) 複数店舗利用促進
- (14) 顧客満足度を高める接客・サービスの向上
- (15) 子供向け設備・サービスの充実
- (16) ガーデン管理及び環境美化による癒しの空間を提供
- (17) 収入に応じた支出管理の徹底

4. 出張販売

(1) 実施 10 件

場所	事業名	期日
東武百貨店 池袋店	IKEBUKURO パン祭	3/31~4/5
DCM 稲城押立店	出張販売	6/11~7/3
イトーヨーカドー アリオ亀有店	出張販売	8/31~9/12
東武百貨店 池袋店	47 都道府県 日本のグルメショー	9/8~9/13
東武百貨店 船橋店	にっぽんの味	10/27~11/3
DCM 稲城押立店	出張販売	10/22~11/13
山梨県立美術館前広場	出張販売	12/3~12/3
京王百貨店 新宿店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/7~1/15
東武百貨店 池袋店	47 都道府県 日本のグルメショー	3/9~3/14
東武百貨店 池袋店	甲信越展	3/16~3/21

(2) 実績

(単位：千円)

	2022 年度	2021 年度	増減
出張販売件数	10 件	4 件	+6 件
ソフトクリーム売上	12,901	7,291	+5,610
物販売上	2,788	1,133	+1,655
合計 (税別)	15,689	8,424	+7,265

収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業

1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、個人利用のお客様の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受入れについても積極的に行う計画を立てた。

- (1) 新ホテルシステムを導入したことで、予約状況・実績の迅速な情報共有及び各予約サイトとの連携が強化された。また業務内容の見直しを図り、宿泊手配や食事提供方法等について、効率的なオペレーションになるよう改善に努めた。
- (2) アンケートによるお客様の声より、施設やサービスの改善を行った。
- (3) 宿泊利用促進のためWEBの宿泊特設ページを高い頻度で更新し、魅力ある宿泊プランをアピールした。また季節ごとのポスターやチラシを作成し近隣施設に掲示・配布するなど、情報発信を積極的に行った。
- (4) 顧客利用に繋がるジャージー牛ファンクラブの会員獲得に向けたインフォメーションを積極的に行った。
- (5) 感染症対策による規制の一部解除に伴い、食事提供方法を考慮して地元謝恩会・ブライダルの受入れを行った。
- (6) 地産地消やこだわりの食事提供等をキーワードに宿泊者専用レストランの情報を宿泊プラン・WEB・チラシ・SNSを活用して積極的に行った。

(個人利用実績)

	2022年度	2021年度	増減
宿泊個人利用数	25,749人	22,822人	+2,927人

本部(管理部門)

1. 総務

- (1) 理事会（年5回）、定時評議員会の開催等、法人の運営に関わる業務を行った。
- (2) 山梨県・北杜市等の行政、観光協会、地元企業等に対し、役員・関係部署との窓口となり各種業務を行った。
- (3) 職員採用活動、勤怠管理の効率化、寮・社宅・従業員食堂等の運営改善に取り組んだ。
- (4) 各部署と連携し、職員の研究業務のための情報提供・協力やフィールド提供を行った。

2. 経理

- (1) 法人の経営管理・決算業務（年次・月次）、日常の個別取引管理・処理業務、資金繰管理業務等を主に行った。

3. 施設

- (1) 法人の施設の維持、管理、修繕に係る業務を行った。
- (2) 施設の更新に関する意見具申を行った。

4. 企画

キープ協会全体の情報を収集・管理し、WEB・SNSやプレスリリースなどの広報媒体による発信を行った。

- (1) 客室、レストランのメニュー、売店商品、体験プログラム、イベント、自然風景等の画像・動画撮影による素材の収集を行った。
- (2) 収集した商品画像・動画をカテゴリー別に整理し、有効な素材をライブラリーに集約することで、効果的な情報発信を行える環境を整備した。
- (3) 清泉寮・キープ協会のWEBページの更新頻度と質を高め、WEBのビュー数増加に繋がる情報の発信管理を行った。
- (4) SNS（Facebook、Instagram、Twitter、YouTube）を活用した営業情報、自然情報の発信を行った。
- (5) 季節ごとの魅力を伝える画像・動画を作成し、営業施設のサイネージやWEBでの公開、SNSでの配信を行った。
- (6) 営業、商品・サービス、プログラム・イベント、自然等に関する情報のプレスリリースを担当し、取材対応を行った。
- (7) 宿泊客および会員制クラブ組織の会員に対するメールマガジンの配信と管理を行った。
- (8) 宿泊プランやイベントに関して、集客効果を上げるための広報と管理を行った。
- (9) 高冷地酪農事業及び乳製品の高付加価値化事業を強化するために立ち上げた事業応援の会員組織「清泉寮ジャージー牛ファンクラブ」の運営と管理を行った。

5. 営業

新型コロナのピークアウトを見据えた教育旅行等の日程・方面変更が続出する中、新規営業対象先、旅行エージェント、既存利用団体を訪問して自然体験プログラム等を再度案内すると共に、一般募集・企業団体への営業活動も行った。

- (1) 過去の利用情報を集約し、新規・リピーター利用に繋げる営業活動を行った。全体では期間中盤（秋期）より全国旅行支援が始まり、回復の兆しが窺えた。
- (2) 一般団体については、全国旅行支援の開始に伴い、募集团体の利用が次第に戻って来たが、グループ・企業団体は回復しなかった。また、教育旅行については、約6割から7割の回復が見られた。
- (3) 日帰りランチ団体は前年度比で増加したが、コロナ前の水準までは回復しなかった。
- (4) 売店・ソフトクリーム利用の日帰りバスツアーは、週末を中心に例年比まで回復した。
- (5) 各種パーティー（忘年会・新年会・謝年会・ブライダル）は、謝年会とブライダルを除き利用は無かった。謝年会は開催しない学校と開催する学校で分かれた。ブライダルは前年の少人数の利用ではなく通常の挙式と披露宴が増えた。

(利用実績)

	2022年度	2021年度	増減
一般団体	59件／1,716名	33件／102名	+26件／+1,614名
教育旅行	129件／11,725名	53件／4,032名	+76件／+7,693名
日帰りランチ団体	72件／2,259名	39件／1,600名	+33件／+659名
バスツアー	402件／22,922名	122件／5,268名	+280件／+17,654名
謝恩会	2件／107名	0件／0名	+2件／+107名
ブライダル	7件／395名	8件／148名	▲1件／+247名